

# 総務委員会資料

## 所管事務の調査（報告）

新川崎・創造のもり産学交流・研究開発施設の整備について

資 料 新川崎・創造のもり 産学交流・研究開発施設（新施設）の整備  
について

参考資料1 新川崎・創造のもり 産学交流・研究開発施設整備事業について

参考資料2 新川崎・創造のもり地区の概況（平成28年11月1日現在）

経済労働局

平成28年11月17日

## 1 産学交流・研究開発施設（新施設）の概要について

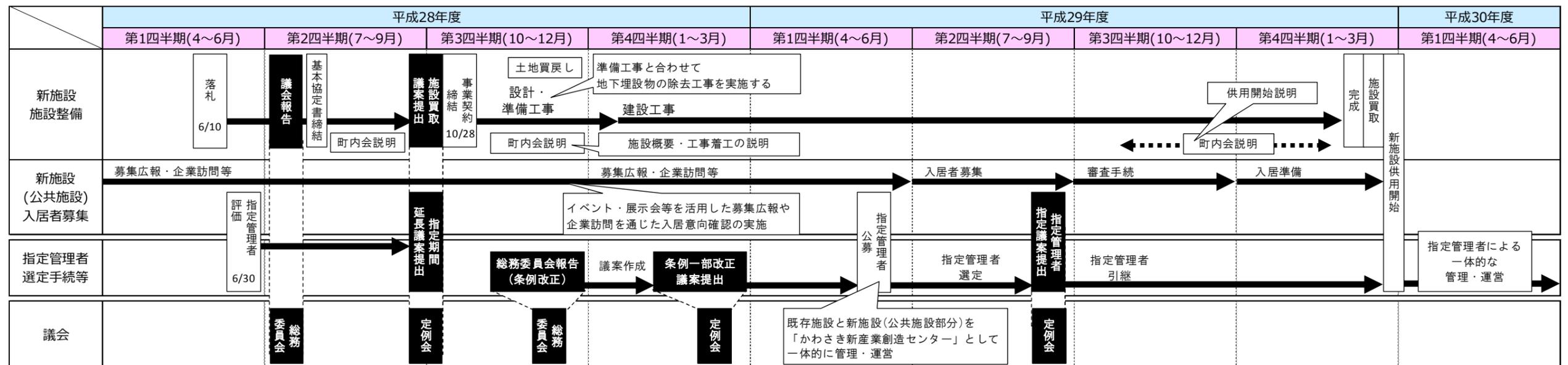
- 産学交流・研究開発施設（新施設）は、「創造のもり」事業の集大成となる本市のオープンイノベーション拠点施設（PPP手法により大和ハウス工業㈱が整備）
- 現在、設計作業中であり、延床面積約27,000㎡、鉄骨造、地上5階 地下1階建
- 公共施設部分は1階の一部、2階  
民間施設部分は1階の一部、地下1階、3～5階（新施設平面図参照）
- 市は、公共施設部分を買取り、KBIC・NANOBIICと合わせ三棟一体の公の施設として管理・運営
- 大和ハウス工業㈱は、民間施設部分等を管理・運営



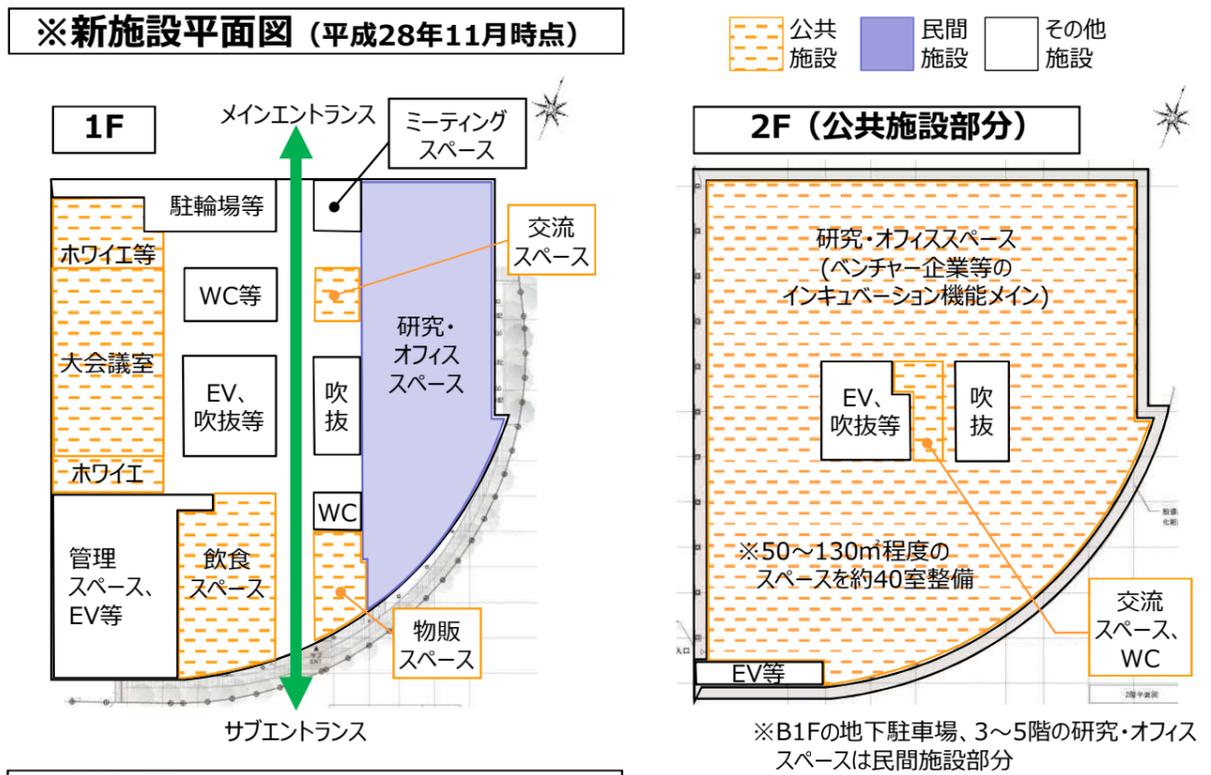
## 2 「かわさき新産業創造センター条例」改正に向けた方向性について

- ① 共同研究に係る事業内容の明確化
    - ・「産学交流・研究開発施設整備基本計画」（平成26年5月策定）に基づく、「研究資源の連携・交流の結節点」、「オープンイノベーションの拠点」という役割を踏まえて、共同研究の促進に向けた事業実施に係る内容の明確化を図るもの
  - ② 新施設の居室（公共施設部分）の利用料の設定
    - ・新施設の利用料については、KBIC・NANOBIICの利用料や近隣のインキュベーション施設の賃料等を参考にして設定を行うもの
- ※ 条例改正案については、平成29年2月定例会に上程予定  
 ※ パブリックコメント手続については、条例の改正内容が、パブリックコメント実施手続済（平成26年度）である同基本計画を踏まえた本文改正及び利用料設定に係るものであることから、同手続の適用除外となるため実施しない。

## 4 施設整備スケジュール



## 3 新施設の施設配置について



※新施設面積表（平成28年11月時点）

施設部分	施設名	面積 (㎡)	合計	備注
公共施設部分	研究・オフィススペース（インキュベーション機能）	約3,500	約7,300	施設合計 約27,000㎡
	大会議室・ホワイエ	約800		
	飲食・物販スペース	約500		
	交流スペース・通路等	約1,400		
	その他施設(エントランスホール等)	約1,100		
民間施設部分	研究・オフィススペース（長期入居可能）	約10,900	約19,700	
	通路等	約5,700		
	その他施設(エントランスホール等)	約3,100		

※平面図、面積表ともに、設計中の資料のため、今後、内容が変更となる可能性があります。



- 新川崎地区は、日本電産(株)中央モーター基礎技術研究所や、ユニキャリア(株)本社・研究所(平成27年8月オープン)等の立地も進み、先端技術の研究開発に取り組む企業・大学の集積がさらなる進展(推定就業人口約1万8,000人)
- E地区内のパイオニア(株)本社・研究所が平成28年3月で市外に移転し、同施設に富士通(株)が入居
- 新川崎地区内の企業・大学を中心とした連携組織「新川崎地区ネットワーク協議会」(会長:元山義郎 三菱ふそうトラック・バス(株) 副社長、会員数:企業44社、大学、関係機関)の活動など、新川崎・創造のもりを拠点とした、活発な産学・産産連携活動を推進



## 新川崎・創造のもりの役割

### ベンチャー支援と産学連携による産業イノベーション拠点

「NANOBIIC」では、インキュベーションの他、産学連携支援、4大学が保有する世界最先端の研究機器を企業等に開放、技術指導を行うなど、市内事業者のものづくり技術の高度化支援に取り組んでいます。



### 新川崎地区を中心とする企業、大学等の連携・交流拠点

平成24年度に新川崎地区内の企業・大学を中心とした産学連携、産産連携を目指す組織「新川崎地区ネットワーク協議会」が発足し、活動を開始しており、新川崎地区において、産学連携基盤の形成が進んでいます。  
会員数:企業44社、大学、関係機関

新川崎地区ネットワーク協議会の活動

- 「ナノ茶論」大学の研究者と企業の定期交流会
- 「さいわい トライサイエンス」地域の子どもの向け科学イベント
- 会員企業、研究開発拠点等の見学会
- 会員企業イベントの地域開放

### 子どもたちが科学・技術とふれあい、夢を育む創造拠点

科学の面白さや楽しさを体感できる子ども向け科学イベント  
「科学とあそぶ幸せな1日」は、創造のもり一帯を活用し、K<sup>2</sup>タウンキャンパス、川崎市、及び「創造のもり」内外の企業や団体が協力して開催しています。(毎年9月頃開催)  
平成28年度開催実績:参加者約1,300人

## D地区 新川崎・創造のもり

**第1期事業**  
**K<sup>2</sup>(ケイスクエア)タウンキャンパス**  
平成12年7月開設  
慶應義塾大学の先導的研究施設で、最先端の研究開発を実施  
13研究プロジェクト、2教育プログラムが入居

**第2期事業**  
**かわさき新産業創造センター「KBIC」(ケービック)**  
平成15年1月開設  
ベンチャー企業の入居スペースと専門家による支援メニューを提供するインキュベーション施設  
23社、4研究室、4大学が入居  
オープン以来、90%以上の入居率を維持

**第3期第1段階事業**  
**ナノ・マイクロ産学官共同研究施設「NANOBIIC」(ナノビック)**  
平成24年4月開設  
ナノ・マイクロ(※)技術分野の最先端の研究開発から製品化までを一気通貫で行うことが可能で、人材、技術、最先端の研究機器等を集積させた高度なファブリケーション施設  
超微細加工や計測を行うため、微小なほこりを排した約750㎡の大型クリーンルーム(クラス100、クラス10000)を完備  
慶應、早稲田、東工大、東大からなる4大学のナノテクコンソーシアム、日本IBM東京基礎研究所・東京大学の共同研究プロジェクト他、ナノテク関連企業等5社が入居  
※ナノは、10億分の1を表す単位、マイクロは100万分の1を表す単位